

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 関根 雅則	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究面】</p> <p>近年、「オープン・イノベーション」という概念が高い注目を浴びていることから、その新しさがどこにあるのかを探る研究を行った。特に、これまで企業経営や経営学の分野で盛んに議論されてきた提携（アライアンス）やコラボレーション、共同研究・共同開発、ライセンスング、合弁（ジョイント・ベンチャー）、異業種交流、合併・買収（M&A）などといった概念と何か際立った違いが存在するのについて検討した。その際、オープン・イノベーションという手段を用いることによって成功している様々な企業の事例を調査した。それにより、1つの結論として導かれた見解は、「確かに、オープン・イノベーションという概念に新しさはあるものの、それが高い注目を浴びる理由は、むしろ企業を取り巻く環境の変化、ないし時代背景にある」というものであった。そこで、自身の見解を主張する論文を執筆し、平成 25 年 6 月発行予定の『高崎経済大学論集』に応募、投稿した。</p> <p>【教育面】</p> <p>平成 24 年度より、新たに大学院の演習生 1 名および研究生 1 名、計 2 名を受け入れた。2 名とも留学生であり、その上、学部までの専門が「経営戦略」ではなかった。そこで、同分野やイノベーション論の分野に関わる基礎知識を修得させるため、徹底した教育を行った。なお、研究生に関しては、本学大学院博士前期課程への入学を希望していたため、適宜、入試に向けての指導をした。</p> <p>また、学部のゼミについては、4 年生の卒業論文作成、および、3 年生のインナー大会向け論文作成を指導するため、通常の演習に加え、合宿を開催するなどした。なお、平成 24 年度、初めての試みとして、3 年生が本学内の他のゼミと統一テーマの下で討論する機会を設けた。学生にとっては様々なことを同時並行で行わなければならず苦労したようであったが、十分な成果を得ることができたと考えている。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>①JA 群馬中央会からの依頼により、「JA 職員長期研修会」において、「イノベーションと競争戦略」というテーマで講義を実施した。</p> <p>②沼田市経済部産業振興課からの依頼により、「市内主要製造業経営者等懇談会」において、「オープン・イノベーションの可能性」というテーマで講演した。</p> <p>③群馬県産業経済部産業政策課からの依頼により、「群馬県優良企業表彰」の審査委員を務めた。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	